

⇒ 大学において学修するための基礎知識 I～VIII

I. 「履修する」ということ ―所属する学科の課程を学習し修めること―

各学科の課程には、必修科目(所属する学科で必ず履修しなければならない科目)とそれ以外の科目「選択科目」があります。このうち「選択科目」については、皆さんの学習目的に沿って、自分自身で科目を選びます。所属学科の中心的な科目である必修科目を学習するとともに、その周辺科目である選択科目を自分で選ぶことで、自分なりの学修体系をつくりあげていくことになります。なお、履修するためには、大学が定める期間内に「履修登録」する必要がありますので、必ず覚えておいてください。

皆さんは、近い将来、就職活動など、自分の進路を決定しなければならない時期がやってきます。自分の可能性を大きく広げるために、基礎となる大学での学習に、主体的に取り組んでください。

II. 本学の学期はセメスター制

セメスター制とは、1年間を前学期(15週間)と後学期(15週間)の2学期に分け、学期ごとに、配当科目が定められ、授業・試験・成績評価を行う学期制度です。各科目は、半年間で完結します(※一部科目を除く)。

卒業までには、2学期×4年=8学期(短期大学部は2学期×2年=4学期)あります。卒業までの4年間(短期大学部は2年間)の履修計画を立て、そして、年度ごとに修正しながら、各学期の配当科目を学習していくことが大事です。

III. 大学の授業科目は単位制 ―学習時間と単位の関係―

各科目の単位数は、文部科学省が定める大学設置基準に基づき、教室における学習時間数と教室以外(授業以外)での学習時間数(予習・復習の時間)の合計で決まります。本学のほとんどの科目が2単位で、2単位を修得するためには、

→ 授業科目 1コマ = 2時間/週(本学では90分) × 15週間

修得のための予習復習時間 = 4時間/週 × 15週間

の時間数が必要とされます。

例えば、前学期で24単位(12科目)履修登録した場合、1週間で授業以外に「4時間×12=48時間」の予習・復習が必要となり、月～土の6日間で考えると、1日平均8時間の予習・復習が必要となります。したがって、無制限に履修登録すると消化不良を起こしてしまいます。そこで本学では、**年間で履修登録できる単位数と学期ごとに履修登録できる単位数にそれぞれ上限を設けています**(※詳細は6ページ「2 履修登録にあたっての注意事項」を参照のこと)。

IV. カリキュラム(学修体系)の特長 ―いろいろあるのが本学の特長―

皆さんは、将来の目標があって、それぞれの学科を選び、難関を突破して入学してきました。大学では、それに応えるべく、皆さんが満足できる、そして皆さんを、自信を持って社会に送り出せるようなカリキュラムを作っています。カリキュラムには、本学の伝統に培われた教育理念と、学風が盛込まれていることを、皆さんはしっかりと感じ取ることができるでしょう。以下に、科目の種類と学修体系の特長を記します。

◆科目の種類

①【必修科目】

各学科に配当された、学科のめざす専門分野の科目です。必修科目は、必ず履修して、合格の成績評価を受けないと卒業できません。1つでも不合格だと卒業できません。

②【選択必修科目】

各学科に配当された、学科のめざす専門分野の科目で、限定された科目群の中から、指定された単位数を修得しなければならない科目です。

③【選択科目】

各学科に配当された、より高い専門性を修得するための科目です。皆さんの意思で自由に選択できます。

◆学修体系の特長

【総合教育科目と専門教育科目】

本学のカリキュラムは総合教育科目と専門教育科目の2つに大別されます。

※詳細は「学生生活ハンドブック」の履修編「授業科目の概要」を参照のこと。

【他学科・他学部聴講制度】

本学のカリキュラムの大きな特徴として、**他学科・他学部聴講制度**があります。これは、他の学科・学部に配当されている科目を、皆さんが自由に選択できる制度です(※実習・実験・演習科目、一部科目を除く)。

本学は、農学から出発し、農学の多様性から生物系の総合大学へと発展してきました。学問領域は、より細分化、より専門化され、学際的視野・知識が必要不可欠とされています。本学は、農学分野の性格上、大局的視野と高度な専門性の修得を教育目標としています。**他学科・他学部聴講制度**は、本学の教育理念“実学主義”にも通じるもので、現実を広い視野で考え、実社会に役立つ高度な専門性を築いていくことを、学生の皆さんに期待しています。

【英語による専門教育プログラム】(大学のみ)

全学部全学科の学生を対象としたプログラムです。本学の専門的な教育科目を、すべて英語による授業で開講するものです。グローバル化時代に対応した大学教育の必要性から実施するものです。自分の英語の実力アップを計りながら、『Basic』なレベルの科目から『Advanced』な科目へ挑戦してください。

【教職課程(大学のみ)・学術情報課程】

教員免許取得や学芸員、司書の資格を取得したい学生のために開講しています。これらの資格を取得したい学生は、自分で申請して履修手続きをしなければなりません。

V. 履修登録する ー 選択科目を選ぶ、そこに自分の可能性が詰まっているー

必修科目以外の選択科目をいかに選ぶか。皆さんが、より良い学修体系を創造していくためのアドバイスです。

① 自分の学修体系を決める。

卒業までの4年間または2年間を総合的に把握し、卒業後の将来を見据えた学習プランを考えてください。

→ 在學生は、成績表をもとに、自分の学修体系を再確認すること。前年度までの学習計画を再検討するのに良い機会でもある。さらに方向修正もできる。

② 科目名をチェック ⇒ 科目名で大体的な内容がイメージできる。

- ◇ 自分の学科配当の選択科目
- ◇ 自分の学部の共通配当科目
- ◇ 他の学科、学部の科目

③ Web シラバス(講義要項)で科目の講義内容をチェック。

科目名だけでは、実際の細かな講義内容はわかりません。Web シラバスには、全科目の授業概要と到達目標、授業の進行、評価の方法など詳細が載っていますので活用してください。

④ 履修登録前に、履修したい候補の講義を受講する。

シラバスで科目の内容がわかったら、実際の講義に出席して内容をチェックしてください。本当に学びたい科目なのか確認しましょう。履修登録前であれば、自分の興味に応じて自由に授業に出席することができます。※「上位学年の開講科目」を除く。また、「クラス指定がある科目」等、一部の科目を除く。

⑤ さあ、履修登録しましょう。⇒履修登録期間をチェック ※5ページに日程を記載

前学期の授業開始後に、後学期の開講科目を含めて、1年間分の科目を履修登録します。後学期の科目については、授業に出席せずに登録科目を決めなくてはいけませんが、後学期開始後に履修の変更登録期間を設けていますので、前学期と同様に登録前に授業に出席することができます。**変更登録期間では後学期開講科目の追加・削除・変更が可能です。**

履修登録するための諸注意を、6ページ以降に記載していますのでよく読んでください。

【重要】：履修登録は、定められた期間でしか行うことができません。忘れずに、また、間違いのないよう慎重に登録してください。

VI. 履修モデル

就職・進学するために有益な科目として推奨する「履修モデル」を学科別に記載していますので、参考にしてください(※履修モデルのとおりを受講しないと就職・進学・資格取得ができない、というわけではありません)。

(注意) 履修モデルに記載されている科目のみで、卒業要件単位や資格取得に必要な単位を充足するわけではありません。

当該学科の卒業要件単位(必修・選択必修・選択科目)、資格関係科目を全て修得しなければ、卒業や資格取得(受験資格を含む)することはできません。卒業及び資格取得に必要な単位の詳細は、入学時に配付した「学生生活ハンドブック」を参照してください。

VII. 学生の皆さんへの注意事項 ー自分のことは自分で、責任を持ってー

1. 配付した書類は熟読してください。
2. 学生ポータルサイトや掲示板を必ず確認してください。
3. 提出期限は厳格に守ってください。(期限後は受付けません)
4. **電話での問合せは一切受付けません。**
5. 教務課(世田谷)・学生教務課(厚木)窓口の業務時間(時間外は受付けません)

【平日(授業期間)】世田谷:8:30~19:30、厚木:8:30~17:00

VIII. 学部・学科等の名称の短縮表示・表示順番について

本学では学科等の名称を略して表示することがあります。また、掲示物などの順番も原則として次のように行います。

学 部 名 等	略称名
農学部	農学部
農学科	農学
農業生産科学コース	農
園芸生産科学コース	園
畜産学科	畜産
バイオセラピー学科	セラピー
応用生物科学部	応生学部
バイオサイエンス学科	バイオ
生物応用化学科	化学
醸造科学科	醸造
食品安全健康学科	健康
栄養科学科	栄養
地域環境科学部	地域学部
森林総合科学科	森林
生産環境工学科	工学
造園科学科	造園
国際食料情報学部	国際学部
国際農業開発学科	開発
食料環境経済学科	経済
国際バイオビジネス学科	ビジネス
短期大学部	短大部
生物生産技術学科	短生
環境緑地学科	短緑
醸造学科	短醸
英語による専門教育プログラム	英語専門
全学共通科目	全学共通
教職課程	教職
学術情報課程	学情

平成29年度（2017年度）年間授業計画

（農学部・応用生物科学部・生命科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部・短期大学部）

月	日（曜日）	行事予定
4	2（日） 3（月）～ 6（木） 7（金）	入学式 新入生各学科ガイダンス、新入生健康診断 在学生ガイダンス、在学生健康診断 新入生学外オリエンテーション 前学期授業開始（7/27まで）
5	18（木）	大学の記念日【授業日】
6	3（土）	教育懇談会
7	22（土）・23（日） 25（火） 28（金）	教育後援会地方懇談会 【休講日】
8	3（木） 5（土）・6（日） 4（金）	前学期定期試験 オープンキャンパス（世田谷キャンパス・厚木キャンパス） 夏季休業 夏季集中授業
9	上旬 20（水） 21（木）	前学期定期試験の評価開示 編入学試験 後学期授業開始（1/26まで）
10	9（月）	体育の日【授業日】
11	2（木） 7（火） 18（土）・19（日）	収穫祭の実施に伴う休講期間 （世田谷キャンパス）前夜祭 11/2, 収穫祭 11/3～5 （厚木キャンパス）前夜祭 11/3, 収穫祭 11/4・5 （両キャンパス共通）準備 11/2, 体育祭 11/6, 後片付け 11/7 推薦入試
12	2（土） 26（火）	優先入試 冬季休業
1	5（金） 9（火） 12（金） 13（土）・14（日） 24（水） 26（金） 29（月） 31（水）	後学期授業再開 センター試験準備日【休講日】 センター試験日 【休講日】 卒業論文題目届の提出期限（3年次生） 卒業論文の提出期限（卒業年次生）
2	2（金） 6（火）～ 8（木） 中旬 27（火）	後学期定期試験 一般入試全学部統一型 後学期定期試験の評価開示 一般入試学部志望型
3	6（火） 9（金） 20（火） 21（水）	学校法人の創立記念日 卒業確定者及び進級確定者の発表 学位記授与式（世田谷キャンパス） 学位記授与式（厚木キャンパス）

1 履修登録日程

	新入生	2～4年次生	編入・学士編入学生 転学部・転学科生
4月2日(日)	入学式	「履修のてびき」等配付の 日時・場所は学生ポータル サイトで確認すること。	【世田谷キャンパス】 編入・学士編入学生履修説明 13:00～ 441教室 転学部・転学科生履修説明 13:00～ 413教室
4月3日(月)	学科別ガイダンス・ 履修のてびき等配付 (各学科指定教室) 【農学・応生・生命】		【厚木キャンパス】 編入・学士編入学生履修説明 10:00～ 1306教室 転学部・転学科生履修説明 10:00～ 1306教室
4月4日(火)	学科別ガイダンス・ 履修のてびき等配付 (各学科指定教室) 【地域(森林・工学)・国際】		
4月6日(木)	学科別ガイダンス・ 履修のてびき等配付 (各学科指定教室) 【地域(造園・創成)】		
4月7日(金) ～	前学期授業開始		前学期授業開始
4月17日(月) ～ 4月21日(金)	前学期履修登録期間(学生ポータルサイトから) ※4月21日(金)は午後5時で終了		
4月28日(金) 夕方	履修登録開示日(学生ポータルサイトにて開示) 各自登録内容を確認する。		
5月8日(月) ～ 5月10日(水)	前学期履修修正期間(学生ポータルサイトから) ※5月10日(水)は午後5時で終了		
5月17日(水) 夕方	履修修正登録開示日(学生ポータルサイトにて開示) 各自登録内容を確認する。		
9月21日(木) ～	後学期授業開始	後学期授業開始	後学期授業開始
※後学期履修変更期間については7月下旬に掲示			

※復学・原級・留年の学生は窓口にて履修登録の指示を受けること。

2 履修登録にあたっての注意事項

履修は必ず全員が登録し、登録内容を確認すること(休学者を除く)。

※ 必修科目(当該学年の必修科目)のみ履修する場合でも必ず確認すること。

(1) 履修登録の手順

- ① 用意するもの: 学生生活ハンドブック・履修のてびき(時間割)・シラバス
※ 授業の内容については Web シラバスを参照のこと。
- ② 履修のてびき30ページから記載の学科・学年別時間割を開く。
- ③ 履修のてびき18ページの必修科目自動登録単位数一覧表で自動登録されている科目数を確認する。
- ④ 履修希望科目の履修番号を開講の曜日時限に登録する(19ページの履修登録の入力方法を参照)。
- ⑤ 登録した科目・クラス等は、最終確認のため必ず印刷すること。

(2) 履修登録上の注意事項

- ① 履修番号の登録を間違えると、エラーまたは全く別の科目が登録されるので注意すること。
- ② 在籍学年の必修科目(コース別必修科目を含む)は自動登録されているので登録する必要はない。万が一自動登録科目を変更する場合は、一度科目を削除して新たに登録する科目の履修番号をその時間帯に登録すること。**※復学・原級・再入学・転学部・転学科・編入学及び過去に休学した者は、卒業まで自動登録としないので、各自で履修番号を登録すること。**
- ③ 次のとおり学期ごと及び1年間に履修できる単位数は制限されている。これをキャップ制という。制限を超えて登録した場合は、エラーが表示されるので、超えた単位数に応じて科目を削除すること。削除しない場合は、超えた単位数分の科目が自動削除されるので注意すること。

学期ごとに25単位まで・年間49単位まで(キャップ制)

【例】： 前学期科目を25単位履修する場合、後学期科目は24単位まで履修できる

※ リメディアル科目、教職課程・学術情報課程科目、東京農業大学・短期大学部間の履修科目及び東京情報大学との協定に基づく履修科目は制限の対象外とする。

- ④ 同時限に開講している科目は、いずれかを選んで履修番号を登録すること。
- ⑤ 同一時限に隔週で開講する科目を履修する場合は、同一時限に登録すること。
- ⑥ 在学年次のクラス分けのある科目は、クラス分け表に基づき、各自のクラスの履修番号を登録すること。
- ⑦ 低学年次のクラス分けのある科目は、クラスを選んで履修番号を登録すること(一部を除く)。
- ⑧ 2時限以上続けて開講する科目は、授業開始時限のみ履修番号を登録すること。
- ⑨ 集中授業科目は、開講学期にあわせて時間割外科目登録欄に履修番号を登録すること。
- ⑩ 通年科目は、前学期授業開始時限のみ履修番号を登録すること。
- ⑪ 高学年次配当科目は履修できない(他学科・他学部聴講の場合も同様)。
- ⑫ 東京農業大学の学生が短期大学部の科目を履修する場合、または短期大学部の学生が東京農業大学の科目を履修する場合は、17ページ参照のこと。
- ⑬ いかなる理由があっても前学期開講科目(通年・前期集中科目含む)は、後学期履修変更登録期間には削除できない。

履修登録単位数制限(キャップ制)の計算方法

履修登録単位数制限: 学期ごとに25単位・年間49単位

- ・ 前学期開講科目は前学期の登録単位数としてカウントし、年間の単位数としてもカウントする。
- ・ 後学期開講科目は後学期の登録単位数としてカウントし、年間の単位数としてもカウントする。
- ・ 1年間開講する科目(特別講義など通年科目)は、単位数を2分し、各学期の登録単位数としてカウントし、年間の単位数としてもカウントする。
- ・ 集中開講科目(時間割外科目)は、年間の単位数としてカウントする。

【計算例】

前学期科目 24単位を登録…A 前学期 : $A+C/2=25$ 単位

後学期科目 20単位を登録…B 後学期 : $B+C/2=21$ 単位

通年科目 2単位を登録…C 年間 : $(A+C/2) + (B+C/2) + D=48$ 単位

集中科目 2単位を登録…D

※ この場合、各学期とも25単位を超えず、年間も49単位を超えていないので履修が認められる。

有料科目の納金方法

再履修した場合は、1科目あたり2,000円の再履修料が必要となる。再履修料の納金方法や納金期間については、前学期科目(通年・前学期集中科目を含む)については5月下旬に、後学期科目(後学期集中科目を含む)については11月中旬にそれぞれ設けるので学生ポータルサイトまたは掲示板を確認すること。

※注意事項

- ・ 再履修とは一度履修した授業科目のうち、不合格(不可または未評価)になった授業科目を再度履修すること(他学科・他学部聴講した科目を再度履修する場合も同様)。
- ・ 履修登録する科目が有料科目であるか学生ポータルサイトのメニュー「履修成績」で確認すること。
- ・ 在学中に納金額の不足が発覚した場合は、その時点で納金することを義務づける。

履修に関する重要事項

履修登録に関する情報は、学生ポータルサイトを通じて行う。また、学期ごとの成績開示もすべての学科・学年において学生ポータルサイトを通じて行う。
普段から学生ポータルサイトを確認する習慣をつけること。

3 履修登録上、特に注意を要する授業科目

(1) 英語科目

所属学部によってクラス分けの方法が異なる。履修については学科ガイダンス等で説明があるので確認すること。農学部と地域環境科学部で再履修する学生は、再履修クラス(Sクラス)を履修すること。

※ 全学共通科目の英語科目については、他学科・他学部聴講は認められない。

※ **クラス変更は認められない。**

(2) スポーツ・レクリエーション(一)・(二)

履修人数に定員を定めており、次の日程でクラス分けを行うので、履修希望者は必ず出席すること。

【世田谷キャンパス】: 第1回目の授業(桜丘アリーナ集合、上履き持参)

【厚木キャンパス】: 第1回目の授業(体育館集合、上履き持参)

なお、定員を大幅に上回った場合は、人数調整を行う。授業担当者から履修を認められた者のみ履修登録できる。

※ 2年次以上の学生はどの学科のクラスでも履修することができる。この場合は必ず第1回目の授業に出席すること。

(3) 卒業論文・卒業研究

学部3年次生は1月26日までに所属学科へ「題目届」を提出すること。

(4) ステップ制のある授業科目

次の科目は、1年次に指定の授業科目の単位を修得することにより、2年次での履修が認められる科目である。

【短大醸造学科】「醸造特別実習(二)」(2年次配当) : 1年次に醸造特別実習(一)を履修し、単位を修得すること。

(5) クラス分けのある授業科目

- ① クラス分けは、所属学科の在学年次の開講科目のみに適用される(一部を除く)。クラス分けのある科目は、クラス分け表に基づき自分の所属するクラスを確認すること。
- ② 総合教育科目・専門教育科目の学科基礎科目の時間割に、A・B・C…でクラス分けがある場合は、クラスを選択できる。ただし、情報基礎、英語科目は指定がある場合があるので、ガイダンス等の指示に従うこと。
- ③ 短大の英語(三)(四)を履修する場合は、英語(一)と同じクラスを履修すること。
- ④ 原級・再履修の学生は、クラスを選択できる(健康・栄養を除く)。ただし、情報基礎は最後のクラスで履修すること。
- ⑤ 教職・学術情報課程の時間割に、A・Bでクラス分けがある場合は、クラスを選んで履修すること。
- ⑥ 学科指定のある科目は、自分の学科で履修すること。ただし低学年次配当科目については、クラスを選んで履修することができる(一部を除く)。

(6) リメディアル教育科目

リメディアル教育科目は、原則として1年次の前学期に開講する。年度当初に受講対象者を決定し、対象学生は指定の授業に必ず出席しなければならない。同科目は卒業要件単位には含まれないので、注意すること。

(7) 他学科・他学部聴講・大学間履修(大学間履修制度については17ページを参照のこと)

- ① 他学科・他学部聴講を希望する場合は、各学科の時間割(※農学部の時間割は、学生ポータル掲載)を参照し、希望科目の履修番号を登録すること。クラス分けがある科目については、クラスを選んで登録すること。
- ② 他学科・他学部聴講は、高学年次配当科目を履修できない。
- ③ 他学科・他学部・大学間履修の履修登録単位の上限は、在学中合計30単位(短大部は他学科・大学間履修で合計15単位)である。※ 合否にかかわらず、履修登録が確定した時点で単位数がカウントされる。
- ④ 次の科目については他学科・他学部聴講の対象外とする。
 - 実験・実習・演習(研修を含む)科目
(※国際「海外農業研修」、開発「海外農業実習(一)(二)(三)」を除く)
 - 各学部の総合教育科目の導入科目、英語科目、就職準備科目
 - 一部の学部または学科開講科目
応生「現代の環境問題」
醸造「発酵食品学」「飲酒生理学」
健康「リスクマネジメント論」
栄養「栄養士関係科目及び管理栄養士関係科目」
地域「文学」「哲学」
森林「森林文化論」(ただし、工学・造園の学生は他学科聴講できる)
工学「作物栽培学」「数学」「応用数学」
国際「植物学」「栽培学原論」

(8) その他、各学部の特有用科目

- ① 【農学部】初修外国語関係科目「中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語」を農学部の学生が履修する場合は、いずれかを選択して履修すること(複数の語学を選択することはできない)。
- ② 【応用生物科学部】初修外国語関係科目「中国語・スペイン語」を応用生物科学部の学生が履修する場合は、いずれかを選択して履修すること(複数の語学を選択することはできない)。
- ③ 【地域環境科学部】初修外国語関係科目「ドイツ語・中国語」を地域環境科学部の学生が履修する場合は、いずれかを選択して履修すること(複数の語学を選択することはできない)。
- ④ 【共通】前学期に履修登録した科目について、単位を修得できなかった場合、後学期に同名科目を再度履修することはできない。

(9) 同名科目

次の表は、複数の学部・学科で開講している同名の授業科目一覧である。履修登録にあたっては以下の点に注意すること。

① **所属学科(配当学年を問わず)にある科目と同名の科目は、他学科・他学部聴講できない。**

【例】: 生物応用化学科の学生は、バイオサイエンス学科の「細胞生物学」を履修できない。

→生物応用化学科は2年次に「細胞生物学」開講があるため。

② 同名科目において、既に単位修得している場合は再度の履修はできない。

科目名	学部	学科	学年
中国語(一)	農学部	学部共通	2
	応生学部	学部共通	1
	地域学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
中国語(二)	農学部	学部共通	2
	応生学部	学部共通	1
	地域学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
スペイン語(一)	農学部	学部共通	2
	応生学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
スペイン語(二)	農学部	学部共通	2
	応生学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
フランス語(一)	農学部	学部共通	2
	国際学部	学部共通	1
フランス語(二)	農学部	学部共通	2
	国際学部	学部共通	1
ドイツ語(一)	農学部	学部共通	2
	地域学部	学部共通	1
ドイツ語(二)	農学部	学部共通	2
	地域学部	学部共通	1
環境科学	農学部	学部共通	3
	応生学部	学部共通	3
生命科学	農学部	学部共通	3
	応生学部	学部共通	3
生命倫理	農学部	全学科	2
	応生学部	全学科	1
科学と哲学	農学部	全学科	3
	応生学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
芸術	農学部	農学	1
	農学部	畜産	1
	農学部	セラピー	1
	農学部	セラピー	1

科目名	学部	学科	学年
文化人類学	農学部	農学	2
	農学部	畜産	2
	農学部	セラピー	2
農と科学の歴史	応生学部	全学科	1
	国際学部	全学科	2
日本国憲法	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	2
	地域学部	全学科	2
	国際学部	全学科	1
経済入門	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	2
現代社会の諸問題	農学部	農学	2
	農学部	畜産	2
	農学部	セラピー	2
国際関係を考える	農学部	農学	2
	農学部	畜産	2
	農学部	セラピー	2
生物学	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	1
	地域学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
化学	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	1
	地域学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
物理学	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	1
	地域学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
地学	農学部	全学科	2
	応生学部	全学科	1
	地域学部	全学科	1
	国際学部	全学科	2
統計学	応生学部	全学科	1
	地域学部	全学科	2

科目名	学部	学科	学年
心の構造	応生学部	全学科	1
法と社会	応生学部	全学科	2
現代の環境問題	応生学部	全学科	2
哲学	地域学部	全学科	1
科学の歴史	地域学部	全学科	1
文学	地域学部	全学科	1
地域と文化	地域学部	全学科	2
技術者倫理	地域学部	全学科	3
現代社会と経済	地域学部	全学科	3
国際関係と社会問題	地域学部	全学科	3
日本史	国際学部	全学科	1
法学入門	国際学部	全学科	1
政治のしくみ	国際学部	全学科	1
環境倫理	国際学部	全学科	2
地理学	国際学部	全学科	2
数学	農学部	全学科	1
	応生学部	バイオ	1
	地域学部	工学	1
	国際学部	全学科	1
農業経営学	農学部	学部共通	3
	国際学部	開発	2
	国際学部	経済	2
食品衛生学	農学部	畜産	3
	応生学部	バイオ	3
	応生学部	化学	3
	応生学部	健康	2
	応生学部	栄養	2
食品化学	応生学部	バイオ	2
	応生学部	醸造	3
	応生学部	健康	1
食品機能学	応生学部	醸造	3
	応生学部	健康	2
	応生学部	栄養	2
食品微生物学	農学部	畜産	2
	応生学部	醸造	1
測量学	地域学部	森林	1
	地域学部	工学	2
	地域学部	造園	2
生物統計学	農学部	畜産	2
	農学部	セラピー	2
	応生学部	バイオ	1
	応生学部	健康	3
生物有機化学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	化学	2
	応生学部	健康	2
分子生物学	農学部	学部共通	3
	応生学部	化学	2
	応生学部	健康	2
遺伝学	農学部	農学	1
	農学部	セラピー	1
家畜栄養学	農学部	畜産	1
	農学部	セラピー	2
家畜管理学	農学部	畜産	1
	農学部	セラピー	2

科目名	学部	学科	学年
環境化学	応生学部	化学	2
	応生学部	醸造	3
細胞生物学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	化学	2
	応生学部	健康	2
植物生理学	応生学部	バイオ	2
	応生学部	化学	2
土壌学	農学部	農学	1
	応生学部	化学	3
無機化学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	健康	1
有機化学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	健康	1
	応生学部	栄養	1
有機化学(一)	応生学部	化学	1
	応生学部	醸造	1
有機化学(二)	応生学部	化学	1
	応生学部	醸造	2
微生物学	応生学部	バイオ	2
	応生学部	化学	2
	応生学部	健康	1
	応生学部	栄養	1
分析化学	応生学部	醸造	1
	応生学部	健康	1
	応生学部	栄養	1
公衆衛生学	応生学部	醸造	2
	応生学部	健康	2
	応生学部	栄養	3
実験動物学	農学部	畜産	1
	応生学部	バイオ	3
食品加工学	応生学部	醸造	1
	応生学部	栄養	2
食品製造学	応生学部	バイオ	2
	応生学部	化学	3
生化学	農学部	畜産	1
	応生学部	バイオ	1
	応生学部	健康	1
生化学(一)	応生学部	醸造	2
	応生学部	栄養	1
生化学(二)	応生学部	醸造	2
	応生学部	栄養	2
動物発生工学	農学部	畜産	3
	応生学部	バイオ	3
病理学	応生学部	健康	3
	応生学部	栄養	2
農業経済学	国際学部	開発	1
	国際学部	経済	1
農業貿易論	国際学部	開発	3
	国際学部	経済	2

4 英語による専門教育プログラムの履修登録【履修対象:学部生のみ】

Courses Offered by Special Program (Conducted in English) :

「Agriculture, Food and Environment」

◎ 「英語による専門教育プログラム」受講の勧め

日本人の学生はもとより海外からの留学生に対して、日本およびほかのアジア諸国における食料、農業ならびに環境に関する現状と課題を総合的に理解してもらうことを目的に、2002年度から開講しているものです。英語での授業を通じて、日本人の学生にとっては、自分の専門分野を英語で習得するよい機会となつてそれが留学プログラムを立案したり、International Studiesをより深く理解することに役立ち、また留学生にとっては日本語の授業で十分理解しえない部分を習得できる絶好の機会となります。将来を通じた自分のキャリア・ステップを考慮に入れて、受講されることを強く勧めます。

(1) Program Title:

Special Program (Conducted in English) : Agriculture, Food and Environment

(2) Rationale

An integrated approach is important for the solution of problems of mankind in such areas as food, environment, health, resources and energy, which are all mutually related and interwoven. The food problem generally refers to problems of food production, distribution and consumption, thus covering a wide range of topics. For instance, food production is closely related not only to natural environment but also agricultural and food processing technologies. Distribution of food is determined by political and economic mechanisms, while improved storage and distribution technologies have tremendously contributed to the widening scope of marketing. Food consumption is highly related to the level of income but culture, social norms and dietary habits are other key determinants of what and how people consume food.

Modern agricultural science has greatly contributed to increased food production, which has expanded beyond global population growth. However, problems of environmental destruction and unassured food safety have also emerged. The urgent need to assure environmental conservation and safe food supply are now globally recognized. At Tokyo University of Agriculture, a multidisciplinary, all-university-education program is now being offered for the study of food and environment. Integrated learning of agriculture, food and environmental issues guides students to see how they can make a contribution to solving global issues in the 21st century.

This program provides the opportunity for Japanese students as well as international students to gain holistic understanding on issues of food, agriculture and environment in Japan and other Asian countries.

(3) Time Table (in 2017)

This program was established in April 2002 (not listed in the 2002 course catalogue). The courses are offered to all students in 2017. It is our advice that you select courses according to your English ability.

【First semester】

Comparative Nature Study from Cultural Perspective

Environment and Agriculture

Food and Environment in Economic Development

Food and Health 1

Forest and Forestry

Global Food Systems
Japanese Agricultural Development
Life history and Applications of Landscape Plants
Planning and Design of Landscape Architecture
Vegetable Production Technologies for International Cooperation
Field Study of Food and Environment(intensive)
Sustainable Agriculture in Asia(intensive)
Introduction to Bioindustry

【Second semester】

Agricultural Scientific English for International Cooperation
Agricultural Trade
Agro-Environmental Engineering
Comparative Developing Agriculture
Comparative Food Production Technologies
Ecology and Agricultural Production
Ecology and Food Production
Edo Aesthetics and Environmental Resiliency
Food and Health 2
Farmers and Consumers in Japan(intensive)
Group Approach to Food and Environment(intensive)
Molecular Biology and Biotechnology
Eastern Hokkaido: Identifying Opportunities in a Region of Declining Population

(4) Credits

Each course carries two credits. Credits earned in this program can be counted for graduation requirements, to a maximum of 30 credits under the inter-faculty enrollment system, as specified in Article 15 (3) in the TUA Constitution.

(5) Examination and Grade

Examinations are conducted during the lecture period. Students are requested to follow the instruction of the lecturers. Since supplementary examinations will not be provided, unsuccessful students are required to re-enroll in the following years.

(6) Fees Required

No additional payment is required. However, as fieldtrips and experiments are needed, the students enrolled in Environment and Landscape of Japan, Environment Conservation in Asia, Field Study of Food and Environment, Group Approach to Food and Environment, and Sustainable Agriculture in Asia are required to cover their own expenses. Details will be given in the class.

(7) You may sit-in under this program

For those students who are interested in the program but are unsure of their English competency, auditing is allowed upon permission from the lecturer. No registration is required in this case, but students can make a formal registration after gaining confidence.

H129年度 英語による専門教育プログラムガイドライン一覧

科目名	項目	開講するキャンパス	適正なクラスサイズ(履修人数)	主な履修対象者(日本人学生、外国人留学生、visiting student、協力隊希望者)	履修者に求められる英語能力(TOPIFスコア点数等、英語分初級・中級・上級)	科目内容の難易度(初級、中級、上級)	履修者に求められる専門性	対象履修者が制限される場合の理由	海外留学を目的とする学生への推奨科目(該当の場合○)
Comparative Nature Study from Cultural Perspective	世田谷	15人	全学生	自分の考えを述べたりする気持ち(中級)	中級	問わない	無し	無し	○
Environment and Agriculture	世田谷	20人	全学生	中級以上	初級	問わない	専門語(日本語)の解説以外は日本語を使用しないので、一定以上の英語力が必須となる	○	
Food and Environment in Economic Development	世田谷	10人~20人	日本人学生、外国人留学生、visiting student、協力隊希望者	中級	中級	問わない	無し	無し	○
Food and Health 1	世田谷	5~20人	外国人留学生、日本人学生	無し	中級	問わない	無し	無し	○
Forest and Forestry, Environment Conservation in Asia	世田谷	20人	全学生	英語能力より学力を重視	森林に関する初級内容	問わない	無し	無し	○
Global Food Systems	世田谷	20人	全学生	中学生程度の英語力	一般常識と知的好奇心があれば問題ない	無し	一般常識と知的好奇心があれば問題ない	無し	○
Japanese Agricultural development	世田谷	15人	全学生	初級~中級	初級~中級	初級~中級	日本の農業や食品産業に関する基礎的な知識があること	無し	○
Life history and application of Landscape plants	世田谷	5~10人、10人以上でも対応可能	全学生	無し	初級	初級	若干(植物学)である	無し	○
Planning and Design of Landscape Architecture	世田谷	10~15人	外国人留学生、visiting student	初級~中級	初級~中級	初級~中級	日本の自然環境や文化への興味がある	環境学を専攻するため、大人数の引率は低減される	○
Vegetable production technologies for International Cooperation	世田谷	20人	全学生	中級以上	中級	中級	Agronomy、栽培学である	無し	○
Field Study of Food and Environment※	世田谷	15人	日本人学生、外国人留学生、visiting student	中級~上級	中級~上級	中級~上級	日本を含むアジアの農業、農業経済、アグリビジネスに興味を持つものとする	専門的な教育を英語で履修するため、ある水準以上の英語力と農業の基本的な知識を必要とする	○
Sustainable Agriculture in Asia※	世田谷	15人	日本人学生、外国人留学生、visiting student	中級~上級	中級~上級	中級~上級	日本を含むアジアの農業、農業経済、アグリビジネスに興味を持つものとする	専門的な教育を英語で履修するため、ある水準以上の英語力と農業の基本的な知識を必要とする	○
Introduction to Biotechnology	オホーツク	20人	日本人学生、外国人留学生、visiting student、協力隊希望者	中級~上級	初級~中級	初級~中級	自然科学一般である	無し	○
Agricultural Scientific English for International Cooperation	世田谷	20人	visiting student、協力隊希望者	無し	中級	問わない	無し	無し	○
Agricultural Trade	世田谷	20人	全学生	中学生程度	一般常識と知的好奇心があれば問題ないと思われまます。	初級	一般常識と知的好奇心があれば問題ない	ゼミ形式のため、日本人学生については3人で定めた理由からもう少し多い方が望ましいが、すでに定めた理由からおのずと限られる	○
Agro Environmental Engineering	世田谷	20人	全学生	中級以上	初級	初級	問わない	専門語(日本語)の解説以外は日本語を使用しないので、履修者は一定以上の英語力を必要とする	○
Comparative Developing Agriculture(CDA)	世田谷	15人	全学生	特になし	初級	初級	問わない	無し	○
Comparative Food Production Technologies	世田谷	20人	外国人留学生、visiting student、日本人学生	英語力中級~上級	中級~上級	中級~上級	作物学、園芸、有機化学、昆虫学、環境科学、森林生態学である	無し	○
Ecology and Agricultural Production	榎本	20人	日本人学生、協力隊希望者	TOEIC 300以上	中級	中級	学部2年時までの必修専門科目の単位をすべて修得していること	専門的な教育を英語で履修するため、ある水準以上の英語力と農業の基礎的な知識を必要とする	○
Ecology and Food Production	世田谷	10人	外国人留学生、visiting students	英語の専門テキストが読解・理解でき、英語部でアセスメントができるレベル	初級~中級	初級~中級	問わない	無し	○
Food and Health 2	世田谷	20人	日本人学生、外国人留学生、visiting student	中級以上	中級~上級	中級~上級	食品と健康に興味があり、ある程度の専門用語を理解できること	無し	○
Farmers and consumers in Japan, Japan	世田谷	10人	visiting student	学ぶ意欲を重視	初級~中級	初級~中級	問わない	フィールドトリップのための適正規模とする	○
Group Approach to Food and Environment	世田谷	30名	日本人学生、外国人留学生	上級	中級~上級	中級~上級	海外版定版の学生と英語でのディスカッションを行うための英語力と論理力を持つものとする	海外版定版の学生と英語でのディスカッションを行うための英語力と論理力を持つものとする	○
Molecular Biology and Biotechnology	世田谷	制限なし	全学生	初級	学部3年生対象(visiting studentは制限なし)	初級	基礎的な生物学の知識を有すること	無し	○
Eastern Hokkaido	オホーツク	12人	日本人学生、外国人留学生	中級以上	中級以上	中級以上	問わない	英語能力が中級以上ではないと、アイスキャンディなどに参加しにくくなる	○
Edo Aesthetics and Environmental Resilience	世田谷	15人	全学生	自分の考えを述べたりする気持ち(中級)	中級	問わない	無し	無し	○

※H129年度に関しては、世界学生サミットが海外で開催されるため、CIEPは開催いたしませんので、Field Study of Food and Environment, Sustainable Agriculture in Asiaの科目は履修できません。

5 平成29年度特別講義一覧

はじめに

特別講義は、学生の皆さんが幅広い教養・素養を身につけ、卒業後各方面で最大限に能力を発揮できるようになることを目的として開講します。本学の専門分野の教育は充実しており、その内容・成果に十分な自信を持っていますが、それに加えて、教養面での教育を重視する意味で、様々な内容による特別講義を開講します。

平成29年度の特別講義は、専門教育を補完し、社会に出て役立つ、さらに就職試験にも役立つ多分野の教養的講座として厚木キャンパスでは1コース、世田谷キャンパスでは7コースを開講します。

なお、特別講義(一)～(四)(※短期大学部は(一)・(二))は開講時間が重ならなければ複数履修することができます、上級学年になってからでも履修することができます。

●厚木キャンパス開講コース 特別講義

●世田谷キャンパス開講コース 特別講義

- A コース 国際活動実践論 ―海外現場事情―
- B コース 源流大学 ―源流域で源流学を学ぶ― 体験基礎コース
- C コース 源流大学 ―源流域で源流学を学ぶ― 体験応用コース
- D コース バイオテクノロジーと生活
- E コース バイオテクノロジーと食品
- F コース 公開講座を聴く ―現代を生きる幅広の教養を―
- G コース 世田谷6大学コンソーシアム連携授業「ビジネスモデル論」

●コース別開講目的 ＜厚木キャンパス＞ 特別講義

＜コーディネーター 農学部長・バイオセラピー学科 教授 小川博＞

これからの農学は、専門性を越えて、他の領域を取り込んで新たな体系化を図ることや、遺伝子から地球環境にいたるまで幅広い視点から課題を解決することが要求されている。この講義は、農業生産や人との関わりへの貢献等、農学領域で注目される動植物や微生物の力に焦点をあて、動植物の能力、その活用やつながりなどについて幅広く展開する。

＜世田谷キャンパス＞

A コース. 国際活動実践論 ―海外現場事情―

＜コーディネーター 国際農業開発学科 教授 入江憲治＞

国際的な活動を行うには、海外活動の現場で惹起する様々な問題への実践的な対応力を持つことが必要である。本講義では、その実践力の向上に必要な資質を備えることを目的に、社会の様々な分野で活躍する方々を講師に迎え、「国際協力」、「農業」、「開発」をキーワードに、国内外における苦勞、苦心、喜怒哀楽などの体験談や、海外活動に対する実践的な技術、知識、手法を教授し、併せて国際活動を奨励し、国際的な視野で活躍する人材の育成を図る。

Bコース. 源流大学 ―多摩川源流域で源流学を学ぶ―体験基礎コース

＜コーディネーター 地域創成科学科 教授 宮林茂幸＞

このコースは、本学が多摩川源流域の山梨県小菅村で行っている「多摩川源流大学」プロジェクトに参加し、講義と体験実習をとおして源流域の自然や文化を学ぶ。学内において源流域の自然や文化を学ぶ講義を受講しながら、学んだことを実際に現地で体験実習することで、内容を確認し自らのものにするを目的としている。また、体験実習では小菅村の住民の方々を講師に迎え、森林整備活動として間伐や枝払い、農地での開墾や野菜の栽培、その他郷土食料理調理実習など様々な実習を通して現地の知恵を中心に学んでいく。なお、実習は小菅村だけでなく、岩手県一関市、福島県鮫川村等でも行い、流域や農山村に関わる幅広い知識の獲得と体験を行う。これらをとおして農山村の現状を学び地域問題の理解と解決能力の向上を養う。

Cコース. 源流大学 —多摩川源流域で源流学を学ぶ—体験応用コース

＜コーディネーター 地域創成科学科 教授 宮林茂幸＞

このコースは、多摩川源流域の山梨県小菅村にある「源流大学」で、昨年基礎コースを修了した学生を対象に、実習を行う。このカリキュラムでは最終実習での村民へ向けた発表会にむけて、1年間専門的に農業、林業など自分の興味があるコースを選択し学ぶことができる。例えば源流域の森林管理や整備に関する基本的な森林調査や、また、源流域の農業体験では、地形的にも、規模的にも厳しい条件にあり、そうした中で、手の労働による農業技術、加工技術等を学ぶ。より深く源流文化に触れ、将来地域に入って活躍できる人材を育成する。

Dコース. バイオテクノロジーと生活

＜コーディネーター 分子微生物学科 教授 新村洋一＞

本講義は、バイオテクノロジーが生活環境を多面的に支える現状を基礎から応用まで理解することにより、快適な生活環境作りの基礎知識を得ることを目的とする。

現在、バイオテクノロジーは各種微生物の応用技術、植物育種、環境エネルギー改善の基礎技術として発展しており、私たちの生活基盤を根本から支えている。多様なバイオテクノロジーを構成する各項目について本学の専門教員が基礎知識を平易に解説し、各教員が関与する専門分野にも言及する。

授業は講義形式で行い、対応分野の専門教員が部分的に授業を担当する形式となる。

Eコース. バイオテクノロジーと食品

＜コーディネーター 食品安全健康学科 教授 阿久澤さゆり＞

本講義は、バイオテクノロジーが食生活を多面的に支える現状を基礎から応用まで理解することにより、健康な食生活への基礎知識を得ることを目的とする。

現在、バイオテクノロジーは快適な食生活維持の基礎技術となっている。本講義では、基礎技術の中心となっている食品分析、食材改良技術、生体内反応解析、安全性解析の各事項について本学の専門教員が基礎知識を平易に解説し、各教員が関与する専門分野にも言及する。

授業は講義形式で行い、対応分野の専門教員が部分的に授業を担当する形式となる。

Fコース. 公開講座を聴く —現代を生きる幅広い教養を—

＜コーディネーター 副学長・国際農業開発学科 教授 夏秋啓子＞

東京農業大学で専門分野を学ぶことの重要性は言うまでもないが、社会人、地球人としてより良く生きるためには、視野を広くもち、幅広い教養を身につけることが大切である。この特別講義 F コースでは、社会で活躍するゲストスピーカーをお招きし、それぞれのご専門に基づき、多様な分野における知識や考え方についてお教えいただくことを目的とする。この特別講義は公開講座とし、東京農大生だけでなく、一般の方々の聴講も認めることにする。公開講座形式にすることで、東京農大生は、講演を聞くに相応しいマナーを再確認するとともに、一般の方々と交えた活発な質疑応答に積極的に参加することが期待される。

Gコース. 世田谷6大学コンソーシアム連携授業「エネルギー資源科学」

＜成城大学 教授 海保英孝＞

本講義は、世田谷 6 大学コンソーシアム協定大学(国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、東京農業大学、東京都市大学)間において、それぞれの大学の特色ある授業科目を他大学において開講するものである。本学では、平成 29 年度の世田谷 6 大学コンソーシアム連携授業として、成城大学の海保英孝教授による「ビジネスモデル論」を開講する。(平成 29 年度のみ開講)

ネット社会の深化にともない、「ビジネスモデル」(儲ける仕組み)に注目が集まっている。モノ・サービスを「仕組み」で売り、持続的かつ独占的な地位を確立するというのがその意図ですが、果たしてその目的は容易に達成されるものなのか。本講義では、さまざまなビジネスモデルの事例を批判的に研究する中で、ビジネス(商売)の本質について、学生諸君と一緒に考えていくことを目標とする。

特別講義(世田谷キャンパス開講)の履修登録について

履修する場合は、次のA～Gコースの中から受講するコースを選び履修登録すること。

コース	学期	曜日/時限	科目名	教員	教室	備考
Aコース	通年	木 5～6	国際活動実践論 -海外現場事情-	入江憲治	441	
Bコース	集中(通年)	水 5	源流大学 -源流域で源流学を学ぶ- 体験基礎コース	宮林茂幸	142	
Cコース	集中(通年)	火 5	源流大学 -源流域で源流学を学ぶ- 体験応用コース	宮林茂幸	112	※第一回目は4/12 142教室でガイダンス
Dコース	前学期	水 5	バイオテクノロジーと生活	新村洋一	242	
Eコース	前学期	水 5	バイオテクノロジーと食品	阿久澤さゆり	342	
Fコース	前学期	木 5～6	公開講座を聴く -現代を生きるための幅広い教養を-	夏秋啓子	百周年	
Gコース	後学期	水 4	ビジネスモデル論(世田谷6大学コンソーシアム連携授業)	海保英孝	百周年	

【注意事項】

○学部生は、特別講義(一)～(四)を履修することができる。

○短大生は、特別講義(一)～(二)を履修することができる。

開講曜日・時限が異なれば1年間に2コース以上の履修が可能です。なお、履修登録単位は年間・各学期の履修制限単位数に含まれます。下表にもとづき履修登録してください。

はじめて「特別講義」を履修する場合は「特別講義(一)」を履修登録し、順次(二)・(三)・(四)を履修登録してください。

	Aコース	Bコース	Cコース	Dコース	Eコース	Fコース	Gコース
	木 5～6	水 5	集中	水 5	水 5	木 5～6	水 4
特別講義(一)	4186	4256	4260	4417	4427	4182	4437
特別講義(二)	4189	4259	4263	4420	4430	4185	4440
特別講義(三)	4187	4257	4261	4418	4428	4183	4438
特別講義(四)	4188	4258	4262	4419	4429	4184	4439
特別講義(一)	4018	4237	4239	4411	4421	4017	4431
特別講義(二)	4274	4238	4240	4412	4422	4273	4432

6 全学共通科目「日本語」の履修登録

この科目は、外国人留学生及び帰国子女を対象として開講する授業科目である。**修得した単位は、卒業要件として他学科履修・他学部履修・英語による専門教育プログラムと合わせて30単位まで(短大部は他学科履修と合わせて15単位まで)含めることができる。**

- ※ 農学部が、日本語科目を履修する場合は、厚木キャンパス学生教務課に申し出ること。
- ※ 開講は学部のみ。短期大学部の学生が履修する場合は、大学間履修の手続きをすること。

7 大学間履修(東京農業大学の学生が短期大学部の授業科目を履修する場合、または短期大学部の学生が東京農業大学の授業科目を履修する場合)について

東京農業大学(以下「大学」という)の学生が短期大学部の授業科目を、また短期大学部の学生が大学の授業科目をそれぞれ履修することができる。ただし、別大学の授業科目として取り扱うため、履修登録方法や修得単位の取扱い及び履修料等については以下の取り決め事項が適用となる。履修希望者は十分理解の上、所定の手続きを行うこと**(学生ポータルサイトからの履修登録とは別手続きになるので注意のこと)**。

(1) 履修できる授業科目

各学科の選択科目(配当学年に関係なく履修できる)。ただし、**次の科目は履修対象外とする。**

- 必修科目、コース別必修科目、選択必修科目
- 各学部の総合教育科目の導入科目、英語科目、就職準備科目
- 実験・実習・演習(研修を含む)科目
- 教職課程・学術情報課程科目
- 英語による専門教育プログラム関係科目
- リメディアル教育科目
- 短期大学部1年次配当科目
- 一部の学部または学科開講科目
 - 応生「現代の環境問題」
 - 醸造「発酵食品学」「飲酒生理学」
 - 健康「リスクマネジメント論」
 - 栄養「栄養士関係科目及び管理栄養士関係科目」
 - 地域「文学」「哲学」
 - 森林「森林文化論」(ただし、工学・造園の学生は他学科聴講できる)
 - 工学「作物栽培学」「数学」「応用数学」
 - 国際「植物学」「栽培学原論」

(2) 履修登録単位数の上限

- ◇ 大学の学生が短期大学部の授業科目を履修する場合
 - ⇒ 大学間履修・他学科履修・他学部履修と合わせて30単位以内
- ◇ 短期大学部の学生が大学の授業科目を履修する場合
 - ⇒ 大学間履修・他学科履修と合わせて15単位以内

(3) 単位認定について

修得した科目は、他大学等での修得科目として成績台帳に記載する。また、修得単位の合計を選択科目の卒業要件単位として認定する。

(4) 履修手続方法

- 前学期の開講科目は **4月10日(月)**以降に教務課窓口にて履修届用紙を配付する。
- 後学期の開講科目は **10月上旬(予定)**に教務課窓口にて履修届用紙を配付する。
- ※ 厚木キャンパスは、学生教務課で履修届用紙を配付する。
- ※ 登録後の変更は一切認めない。 **※ 1年次生は大学間履修登録することができない。**

(5) 履修届提出期間

【前学期】 **4月17日(月)～4月21日(金)** 【後学期】 **10月上旬(予定)**

(6) 履修に係る料金

1科目(半期2単位)につき15,000円 **(学部生は在学中12単位まで、短大生は在学中6単位までは無料)**

(7) 履修した場合の試験

定期試験及び追試験を実施する。

8 東京情報大学との協定に基づく科目の履修登録

※ 学事課窓口で確認のこと。

9 必修科目自動登録単位数一覧表

【大学】

学科名	学期	1年次	2年次	3年次	4年次
農学 (農生コース)	前学期	16/25	4/25	6/25	6/25
	後学期	13/25	4/25	6/25	6/25
	年間	31/49	8/49	12/49	12/49
農学 (園芸コース)	前学期	16/25	4/25	6/25	6/25
	後学期	13/25	4/25	6/25	6/25
	年間	31/49	8/49	12/49	12/49
畜産	前学期	16/25	18/25	1/25	3/25
	後学期	13/25	16/25	1/25	3/25
	年間	30/49	34/49	3/49	6/49
セラピー	前学期	18/25	4/25	3/25	5/25
	後学期	13/25	4/25	3/25	5/25
	年間	31/49	8/49	6/49	10/49
バイオ	前学期		20/25	8/25	2/25
	後学期		21/25	6/25	2/25
	年間		41/49	14/49	4/49
化学	前学期		14/25	10/25	2/25
	後学期		15/25	2/25	2/25
	年間		29/49	12/49	4/49
醸造	前学期		12/25	9/25	2/25
	後学期		16/25	9/25	2/25
	年間		28/49	18/49	4/49
健康	前学期		18/25	11/25	2/25
	後学期		17/25	0/25	2/25
	年間		35/49	11/49	4/49
栄養	前学期		21/25	6/25	2/25
	後学期		15/25	3/25	2/25
	年間		36/49	9/49	4/49
森林	前学期		14/25	2/25	2/25
	後学期		14/25	2/25	2/25
	年間		28/49	4/49	4/49
工学	前学期		13/25	2/25	4/25
	後学期		14/25	2/25	2/25
	年間		27/49	4/49	6/49
造園	前学期		12/25	12/25	2/25
	後学期		14/25	6/25	4/25
	年間		26/49	18/49	6/49

学科名	学期	2年次	3年次	4年次
開発	前学期	8/25	2/25	2/25
	後学期	8/25	2/25	2/25
	年間	16/49	6/49	4/49
経済 (食料コース)	前学期	10/25	6/25	3/25
	後学期	10/25	2/25	3/25
	年間	22/49	8/49	6/49
経済 (農業コース)	前学期	12/25	4/25	3/25
	後学期	8/25	4/25	3/25
	年間	22/49	8/49	6/49
経済 (環境コース)	前学期	12/25	6/25	3/25
	後学期	8/25	2/25	3/25
	年間	22/49	8/49	6/49
ビジネス	前学期	12/25	6/25	3/25
	後学期	12/25	2/25	3/25
	年間	24/49	8/49	6/49

※農学・畜産・開発・経済の年間単位数には集中開講科目の単位が含まれる。

※農学1年次の必修単位数をコース毎に記載しているが、1年次にコース分けはない。

【短期大学部】

学科名	学期	2年次
短生	前学期	5/25
	後学期	7/25
	年間	12/49
短緑	前学期	6/25
	後学期	2/25
	年間	10/49
短醸	前学期	11/25
	後学期	5/25
	年間	16/49

※短緑の年間単位数には、集中開講科目の単位が含まれる。

○この表は自動登録してある必修科目の単位数を表示している。

○この単位数を確認し履修登録単位数制限以内で履修登録を行うこと。

※登録されている必修科目を取り消して別の科目を登録する場合は、当該科目の開講曜日・時に履修番号を登録すること(これにより自動登録されている必修科目は削除される)。

○次の学生は、自動登録されないので、必修科目についても履修番号を登録すること。

復学・原級・再入学・編入学・学士編入学・転学部・転学科及び過去に休学した者。

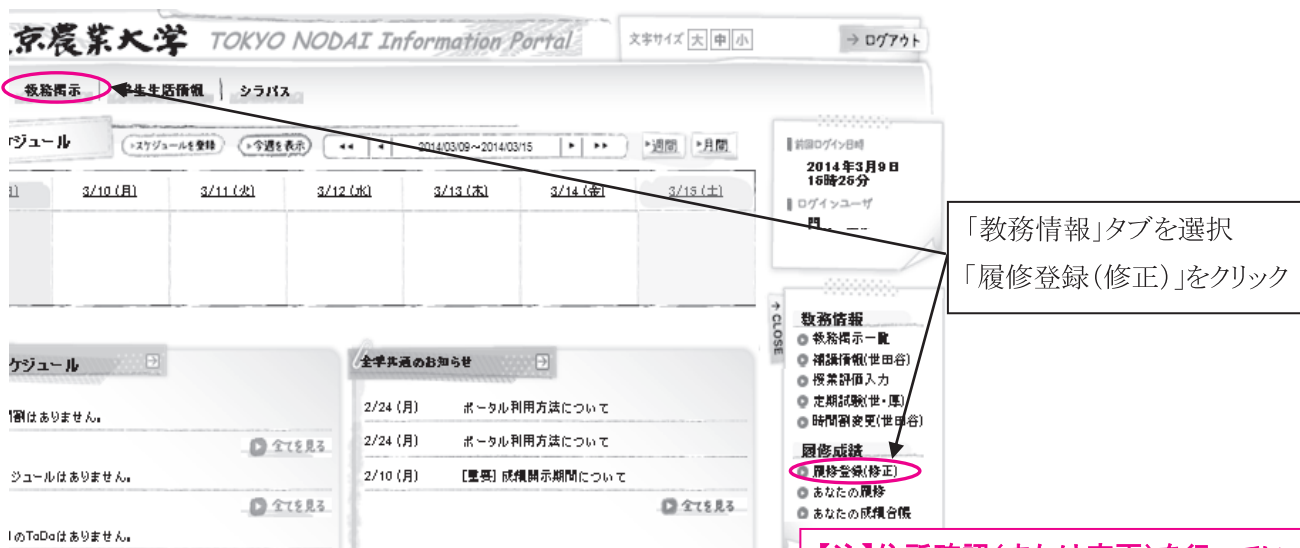
○前年度までに履修登録した他学科・他学部聴講及び大学間履修の登録総単位数を成績台帳で確認して上限を超えて登録しないよう注意すること。

10 履修登録の入力方法

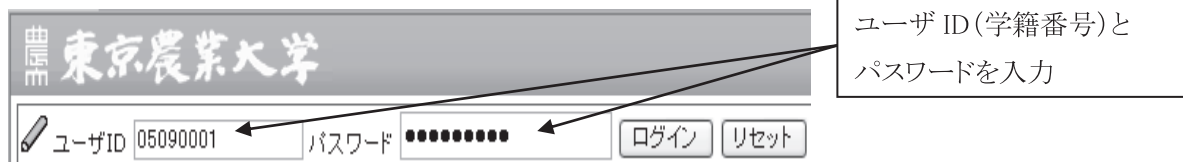
履修登録は学生ポータルサイトの照会「履修登録(修正)」からできる。登録方法は以下のとおり。

※後学期から「Web 履修システム」が変更します。「履修登録(修正)」メニューを選択した後の画面が新しくなります。詳細は別途学生ポータルサイトでお知らせします。

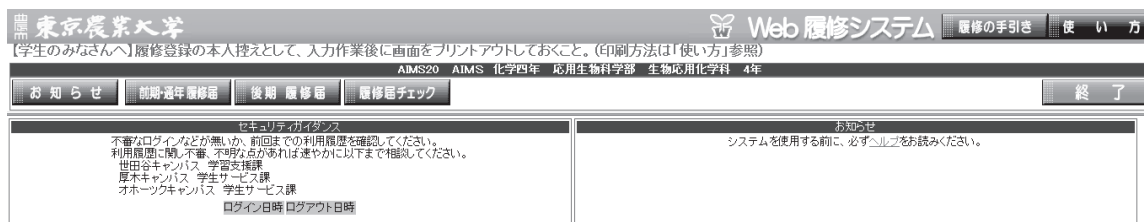
(1) 学生ポータルを開き「履修登録・修正」をクリックする。



(2) ログイン画面



(3) ユーザ情報バー



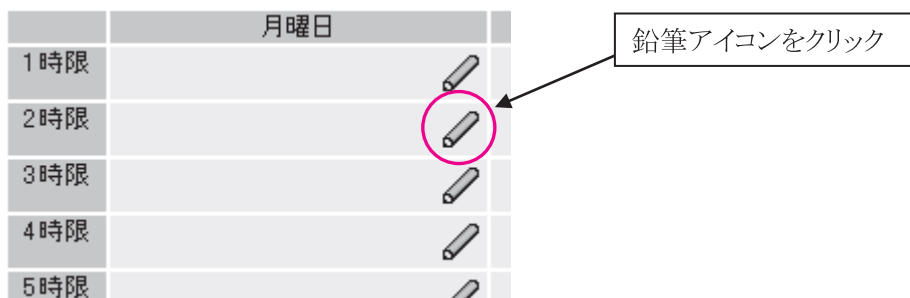
ログインしたユーザの学籍番号、氏名、所属が表示される。

- ①お知らせ……………お知らせ画面が表示される。
- ②前期・通年履修届……前期の時間割表が表示される。前期・通年の履修登録操作もこの画面から行う。
- ③後期履修届……………後期の時間割表が表示される。後期の履修エントリー操作もこの画面から行う。
- ④履修届チェック……………履修登録の内容をチェックした結果が表示される。エラーや警告がある場合は再度登録操作を行うこと。
- ⑤終了……………作業を終了する。終了前には、必ず履修届チェックを行うこと。

(4) 履修登録を新規追加する。

新しく履修登録を追加(履修を申請)する方法について。

① 時間割表にある新規追加アイコン(鉛筆アイコン)をクリックする。



② 申請する科目の開講番号(4桁の数字)を入力し、「確認」ボタンをクリックする。

「該当する開講がありません」というエラー通知が表示された場合は、入力した開講番号を確認し、再度操作を行うこと。

開講番号	1161	確認	前期・通年 火3
------	------	----	----------

③ 表示された開講の情報を確認する。

開講番号	1161	確認	前期・通年 火3
開講番号	1161	単位数	2
開講科目名	数学		
専攻(学科)	バイオ		
学年	1	クラス	
学期	前期	時間種別	通常開講
曜日・時限	火3		
担当者	林 大智		
施設			

科目名・曜日時限・担当者等を確認したら「登録」ボタンをクリック

戻る

登録

※開講科目名をクリックするとシラバスが表示されます

④ 「登録」ボタンをクリックして追加する。

追加しない場合は「戻る」ボタンをクリックする。

⑤ 時間割画面で登録が追加されたことを確認する。

表示された時間割画面で、新規追加した履修登録が表示されていることを確認する。



(5) 履修を削除する。

	月曜日	
1時限	1002 中国語(一)[A]	
2時限		

削除する「履修番号」をクリック

申請中履修(センターへ登録を申請する履修です)

開講番号	1002	単位数	2
開講科目名	中国語(一)		
専攻(学科)	バイオ,化学,醸造,栄養,管理		
学年	1	クラス	A
学期	前期	時間種別	通常開講
曜日・時限	月1		
担当者	林 大智		
施設			

「履修登録の申請を取り消す」をクリック

戻る

履修登録の
申請を取り消す

(6) 履修の登録がすべて終了したら履修届チェックをクリックする。「履修届チェック」をクリックしないと登録できません。

東京農業大学 Web履修システム

【学生のみへ】履修登録の本人控えとして、入力作業後に画面をプリントアウトしておくこと。(印刷方法は「使い方」参照)

AMS17 AIMS 化学一年 応用生物科学部 生物応用化学科 1年

お知らせ 前期・通年履修届 後期履修届 **履修届チェック** 終了

【2024年度 後期履修届】チェック:未確認

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限		7119 有機化学(二)		7120 情報基礎(二)[G]	7120 生物化学(一)
2時限	7096 英会話(一)(化学)[A]	7193 共通演習	7119 有機化学(二)		
3時限	7015 生命倫理(化学)[E]	7027 TOEIC英語(二)(化学)[A]		7123 有機化学実験	
4時限	7057 心の構造[A]			7123 有機化学実験	

「履修届チェック」ボタンをクリック

①履修数、エラーなどの結果が表示される。エラーの場合は赤、警告の場合は黄色で表示される。

【履修届単位数】					
	単位数(カッコ内は前の学期までの数)	制限数	制限超過単位数		
前期	25	25			
後期	24	25			
年間	49	49			
化学部	0(0)				
他学部	0(0)				
大学院	0				
他学部+他学部+大学院	0	30			

【履修届チェック結果】					
エラー番号	エラー内容	開講番号	エラー内容		
エラー番号	エラー内容	開講番号	科目名	クラス	

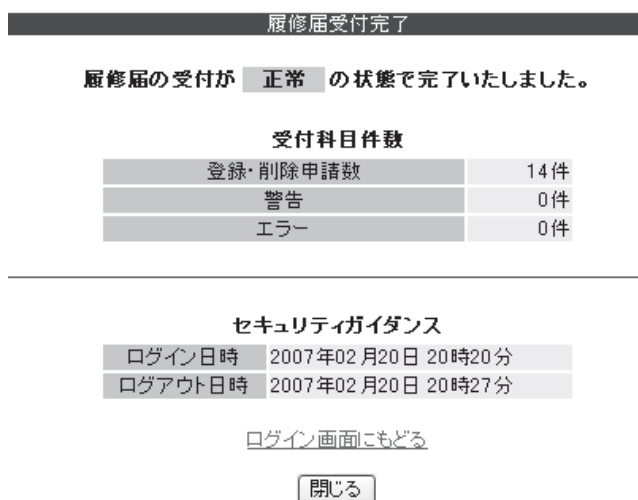
②履修単位数

履修登録の単位数が表示される。他学部、他学科の履修はカッコ内に前学期までの履修数が表示される。

(7) 作業終了をクリックして結果を保存してログアウトする。



(8) 履修届の受付が正常の状態であれば完了したら「閉じる」ボタンをクリックしてログアウトする。



11 履修確認について

- (1) 学生ポータルサイトで履修登録状況を確認すること。確認日程等は5ページを参照のこと。
- (2) **履修登録の内容に修正がある場合は、必ず履修修正期間に学生ポータルサイトで修正すること。**
- (3) 履修登録は履修番号に基づき行っている。履修番号を誤って登録すると、エラーが表示されるか、全く別の授業科目が登録されるので、登録されている授業科目名・クラス・担当者を確認すること。

12 履修確定について

- (1) 学生ポータルサイトで履修登録状況を確認すること。日程等は学生ポータルで掲示する。
- (2) 履修登録(修正・変更を含む)期間では、**自分の登録画面(10 履修登録の入力方法(6)の画面)を必ずプリントアウトし、いつでも確認できるようにすること。**
- (3) 用語の説明
 - ①正規履修 → 所属する学部・学科で開講している科目を初めて履修登録する場合の登録種別。在学年次授業科目の場合は、指定したクラス分に従い履修登録すること。低学年次の授業科目の場合は、クラスを選んで履修登録すること。
 - ②再履修 → 一度履修した授業科目のうち、不合格(不可または未評価)になった授業科目を再度履修する場合の登録種別。有料(1科目 2,000円)である。
 - ③他学科履修 → 所属する学科以外の学科で開講している科目を履修する場合の登録種別(教職課程科目を除く)。なお、一度履修し、不合格のため再度履修する場合は、有料(1科目 2,000円)であり、他学科履修登録単位数にも加算する。
 - ④他学部履修 → 所属する学部以外の学科で開講している科目を履修する場合の登録種別(教職課程科目を除く)。なお、一度履修し、不合格のため再度履修する場合は、有料(1科目 2,000円)であり、他学部履修登録単位数にも加算する。

13 授業について

本学では授業に関するさまざまな情報を学生ポータルサイトにて開示している。授業を受講するにあたっては、次の事項について把握すること。

(1) 授業の内容を知るには・・・

Webシラバスを活用すること。Webシラバスには教育目的・各回の内容・受講上の注意事項などが記載してある。

(2) 授業の開講に関する情報は・・・

- ◇ 授業が休講になる場合は、休講掲示及び学生ポータルサイトの「休講情報」にて伝達する。
- ◇ スマートフォンからも確認することができる。

http://kyuko2.nodai.ac.jp/portalv3_p/kyuko.do

- ◇ 休講となった授業の補講については、授業中における担当教員からの指示または掲示板において周知するので確認すること。
- ◇ 授業の教室を変更する(した)場合は、学生ポータルサイト及び掲示板に掲載する。

(3) 先生方に質問や相談をしたい・・・

授業に関する質問や相談は授業中に行うのが原則であるが、次の方法で行うことも可能。

- ◇ オフィスアワーを確認して研究室などを訪ねる。
オフィスアワーとは、教員が学生の相談を受け付ける時間を設定すること。各教員のオフィスアワーは学生ポータルで確認することができる。

(4) より良い授業にするために・・・

本学では、学生に対して質の高い授業を保証するために、前学期と後学期に「学生による授業評価および学修時間アンケート」を実施している。

実施の方法については、学期毎に学生ポータルサイトに掲示する。

(5) 授業のことで困ったら・・・

- ◇ 授業に対して意見がある場合は、教務課窓口(厚木キャンパスは第二講義棟1階ラウンジ)に置いてある「授業に意見」という用紙を用いて提出することができる。これは日ごろ授業を受けていて感じることを、改善してほしいと願っていることを発言するためのものである。
- ◇ 履修登録および評価に関する質問・相談等は、教務課(厚木キャンパスは学生教務課)窓口で受け付ける。
※電話・メールでは受け付けていないので注意すること。
- ◇ 大学への要望・提案および授業・研究室、学生生活上の悩み等は、メールで受け付ける。
※情報管理は十分配慮する。所属学科名と学籍番号を必ず記載すること。

取扱い責任者： 東京農業大学・同短期大学部 副学長 E-mail g-center@nodai.ac.jp

14 試験について

授業科目の履修状況の評価し、単位を認定するために試験を行う。授業科目によっては、レポートに代える場合がある。授業に出席し授業担当者の指示にしたがうこと。

(1) 受験資格

- ① 当該授業科目を履修登録していること(有料科目については、納金済みであること)。
 - ② 当該授業担当者の定める出席日数を満たしていること(原則として授業日数の2/3以上の出席が必要)。
 - ③ 当該学期までの学費、その他の納付金を納入していること。
- ※ 休学期間中に試験を受けることはできない。

(2) 定期試験

一定の期間内に時間割を決めて各学期に実施する試験である。定期試験を実施する授業科目及びその時間割は、試験開始1週間前に掲示板・学生ポータルサイトに発表する(実験・実習・演習科目は、原則として「定期試験」を実施しない)。

なお、定期試験またはそれに代わる試験を病気その他やむを得ない事由により欠席した場合は、指定された期日(試験時間割発表時に掲示)までに欠席の事由(当日の状況など)を証明する書類を持参し、試験欠席の手続きを行うこと。この届出により、追試験の受験を認める。 **※欠席事由と添付提出書類は次のとおり。**

欠席事由	提出書類
病気	医師の診断書(試験当日の健康状態を記載のものに限る) または病院の領収書(日付及び氏名が記載されたもの)
交通機関の遅延	交通機関発行の遅延証明書
忌引(三親等までの親族の死亡)	死亡に関する書類(会葬通知等)
就職試験等	就職活動証明書(世田谷キャンパスはキャリアセンター、厚木キャンパスはキャリア課で証明を受けること) ※事由によっては証明が受けられない場合がある。必ず試験前、早めに窓口で確認すること。なお、企業説明会は認められないので注意。
災害(水害・火災等)	官公庁による被災証明書

(3) 定期試験に関する注意事項

- 試験時間は45分間。通常の授業時間とは異なるので注意すること。
- 学生証を所持していない学生は受験できない。なお、当日忘れた場合は、学生課(厚木キャンパスは学生教務課)にて仮学生証の発行を受けること(有料 500円・当日限り有効)。
- 受験科目が重複した場合は、事前に申し出ること。
- 試験場への入場は、試験開始後20分までとする(試験開始後は退場できない)。
- 試験場または受験科目・授業担当者の間違い、もしくは無記名答案は受験しても無効となる。
- 答案は白紙であっても必ず提出すること。
- 不正行為が発覚した場合は、当該学期の評価をすべて無効(未評価)とする。
- 試験場においては、すべて監督者の指示に従うこと。
- その他試験に関しては関係窓口へ問い合わせること。

【試験時間】

授業時限	試験時限	試験時間
1時限	1時限	9:00～ 9:45
	2時限	10:00～10:45
2時限	3時限	11:00～11:45
	4時限	12:00～12:45
3時限	5時限	13:00～13:45
	6時限	14:00～14:45

授業時限	試験時限	試験時間
4時限	7時限	15:00～15:45
	8時限	16:00～16:45
5時限	9時限	17:00～17:45
5・6時限	10時限	18:00～18:45
6時限	11時限	19:00～19:45

(4) 追試験

定期試験またはそれに代わる試験をやむを得ない事由(※「(2) 定期試験」を参照のこと。)により、受験できなかった場合に、その根拠書類とともに所定期間内に申請し、追試験期間中に試験を受けるもの。追試験の実施方法は、試験開始1週間前に学生ポータルサイトまたは掲示板にて掲示するので確認すること。

※ 追試験を欠席した場合の再度の試験は行わない。

15 成績相談について

各学期に履修した授業科目の評価(成績)については、学生ポータルサイト上で確認すること。この成績に関して質問がある場合は、成績開示後の成績相談日(通常授業と同曜日・同時限・同教室で実施)に出席し、授業担当者に直接指導を受けること。

なお、この成績相談は、評価の変更を目的として行うものではなく、今後の学習を進めるうえでどのような点に留意する必要があるのか、どのような点が理解できなかったのかを確認するために行うものである。この制度の主旨を理解のうえ出席すること。

事前に所定用紙に記入して持参すること。

16 成績評価とGPAについて

(1) 成績評価

「秀」・「優」・「良」・「可」が合格で、「不可」・「未評価」は不合格。成績評価の基準は、次のとおり。

【成績評価基準のガイドライン】

判定	成績	表示	成績評価基準	GP	成績評価内容
合格	秀	S	100～90点	4.0	特に優れた成績(履修者の5%以内)
	優	A	89～80点	3.0	優れた成績
	良	B	79～70点	2.0	妥当と認められる成績
	可	C	69～60点	1.0	合格と認められる成績
不合格	不可	D	59点以下	0	合格と認められる成績に達していない
	未評価	F	—	0	評価に値しない

(2) GPAについて

自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習に役立てるため、GPAを算出している。

① GPA対象科目

GPAの対象科目は、①「卒業要件に算入できる科目」であって、かつ②「5段階評価によって成績を認定する科目」とし、③「学生が履修登録した科目」とする。

したがって、他学科・他学部聴講科目などは含め、リメディアル教育科目、教職・学術情報課程及び認定科目は除く。

② GPAの算出方法

【a. 学期ごとのGPAの算出方法】

学期ごとのGPA算出は、次の式による。

(当該学期で履修登録したGPA対象科目のGP×その科目の単位数)の合計

当該学期で履修登録したGPA対象科目の単位数の合計

注1) GPA対象科目で不可(D)及び未評価(F)科目は、分母に含む。

注2) 通年科目は後学期に含めGPAを算出する。

注3) 「不可」・「未評価」となった科目を再履修した場合は、再履修した当該学期の対象科目に含め、GPAを算出する。

注4) 前項の場合、「不可」・「未評価」となった学期のGPAは変更しない。

【b. 通算GPAの算出方法】

通算GPAは、在学中に履修登録したすべてのGPA対象科目に基づき、その算出は次の式による。

(在学中に履修登録したGPA対象科目の最新GP×その科目の単位数)の合計

在学中に履修登録したGPA対象科目の単位数の合計

注1) 通算GPAは毎学期末に算出する。

注2) 再履修した場合は1科目としてカウントする(ダブルカウントしない)。

注3) 再履修した科目のGPは、最新の評価に基づく値で算出する。

17 時間割を参照するうえでの留意事項

(1) 学期表示

- ① 同一時限に開講する科目は横並びに表示している。
- ② 集中授業科目は開講学期に従い表示している。

(2) 科目の種類(区分欄に表示)

必……………必修科目 選必……………選択必修科目 空欄……………選択科目

(3) クラス分け表示

- ① クラス分けのある科目は、クラス分け表に基づき自分の所属するクラスを確認すること。
- ② 大学の総合教育科目時間割に大文字のA・B・C…でクラス分け表示がある場合は、オープン科目であるので、各自の時間割に合わせて選択し、受講すること。
- ③ クラス分けのない科目は、クラス表示をしない。

(4) 隔週表示

区分欄の前に「隔週」と表示した科目は、1週おきに単独または2科目交互に実施する科目である。実施については掲示及び学科の指示に従うこと。

(5) 集中授業科目について

時間割に日程・時間・教室の記載がない科目については、後日学生ポータルサイト・掲示板に掲出する。

(6) 担当者表示

担当者が複数の科目は備考欄に全担当者の名前を列記していることがある。

(7) 教室表示

- ① 教室欄に2室以上担当している科目は、いずれの教室で実施するかを担当教員または開講学科の事務室（厚木キャンパスは学生教務課）で確認すること。
- ② 実験・実習・演習室は略称表示をしているので、「実験・実習・演習室略号一覧」（※「農学部」、「応生・地域・国際学部」、「短大部」の時間割先頭ページに記載）で確認すること。
- ③ 教室の場所がわからない場合は、窓口で確認すること。

(8) 開講時限・教室等の変更

時間割・教室等は、変更になることがあるので、必ず学生ポータルサイトまたは掲示板を確認すること。

(9) 教職課程科目の時間割

- ① 学科欄に学科名の短縮表示のある科目は、学科指定の科目である。当該学科・学年の学生は必ず指定の時限で履修すること。
※ 再履修者はこの限りではない。各自の時間割にあわせて選択し、受講すること。
- ② クラス欄にアルファベット表示のある科目はオープン科目である。各自の時間割にあわせて選択し、受講すること。

(10) 履修番号欄の「**」は、次の場合に表示している**

- ① 当該時限の前の科目を引続き開講する場合
- ② 後学期において通年科目を表示する場合